

平成30年6月4日

学校法人 立田学園 立田幼稚園
平成29年度 自己評価結果報告書

学校法人 立田学園
理事長 上村 龍渕

1. はじめに

立田幼稚園の園長及び教職員は平成29年度の教育活動と園の運営管理について自己評価を実施した。その結果を理事長が分析し、下記の通り「平成29年度自己評価公表シート」にまとめ、ホームページ上にて公開することとした。

2. 平成29年度自己評価公表シート

評価分野	自己分析
1. 教育計画	<p>偏りのない保育、体験学習、遊びを中心としたカリキュラム等により、本園の教育目標・方針に沿った教育計画を立てている。</p> <p>これまで前年度計画を踏襲して年間計画を立案してきたため、安定してはいるが、毎年平均的で学年毎に横並びの保育が実施されてきた感があった。平成29年度は保育計画の立案の仕方を見直し、クラスの子どもの実態を反映させた活動や教師一人ひとりの個性を活かした活動をも実践することに取り組んだ。</p> <p>その成果はまだ充分とは言えないが、保育計画のマンネリ化からの脱却に向けて一歩を踏み出した。平成30年度はこの取り組みを更に続けていくこととしたい。</p>
2. 保育の実施と指導	<p>保育の実施にあたっては、子ども達一人ひとりの発達の状況を良く捉え、きめ細やかな保育が実践できるよう、担任教師の他に補助教諭を配置している。それにより、発達等の面で援助が必要な子ども達も通常のクラスの中で過ごすことができ、子ども達がそれぞれに育ち合う環境が出来ている。</p> <p>また、指導においては「できるようになること」ばかりに囚われず、幼児それぞれが一生懸命に取り組み、楽しんで活動できることを大切に、担任教師は保育の実践・援助・配慮や環境構成を行っている。</p>

<p>3. 地域・家庭との連携と支援</p>	<p>園児の健全な成長・発達のために保護者との連絡を密にし、連携を図っている。</p> <p>新たな取り組みとしては、子育て支援事業として「保護者向けセミナー」と「未就園児体験保育」を試し、参加者には好評であった。平成30年度から年間を通して継続的に取り組み、在園児保護者のみならず、子育て中の地域の方への子育て支援の役割も担って行きたい。</p> <p>また、平成29年度はホームページをリニューアルし、日々様子を伝えるおたよりや子育て支援プログラムの案内等も加え、園からの情報発信機能を充実させた。</p>
<p>4. 安全・衛生管理</p>	<p>日ごろより『安全なくして保育なし』を徹底し、幼児の心身の健康と安全管理に取り組んでいる。毎日の繰り返しの中でその意識が薄れた時に怪我が発生するため、教師の研修やミーティングを重ね、特に外遊びの見守りについて度々確認を実施している。遊具の状態の点検も日常的に行っており、平成29年度は大型遊具の取り換えも実施したところである。</p> <p>第二敷地に新園舎が完成したのに伴い、自主消防体制と避難訓練の見直しも行った。</p>
<p>5. 人事管理・労務管理</p>	<p>教職員数が増加し、横の連携がより必要性を増してきた。</p> <p>それぞれが支え合って、より気持ち良い職場環境の構築を目指したい。</p>
<p>6. 財務管理と法人管理</p>	<p>平成30年度は子ども・子育て支援新制度へ移行初年度であり、手探りの運営が続くと思われるが、法人役員会等とも連携し、財政を含めた管理運営の安定化を目指す。</p>

3. 今後の課題と将来への展望

平成30年度から施設型給付を受ける特定教育・保育施設へと移行を果たし、行政との関係が県から市町村へと大きく変更される事となった。新たな信頼関係の構築に向けて、諸処理事項の精度を上げて行きたい。

教育内容については、幼稚園教育要領が改訂となって平成30年4月から施行され、幼児の入園から卒園までのスパンの中で、幼稚園教育において育みたい幼児の資質・能力と卒園までに（幼児期の終わりまでに）育ってほしい10の姿が示された。本園も、新教育要領を意識した教育を実施し、子ども達の健全で良好な成長を目指して行く。

また、幼稚園に於ける2歳児の受け入れについて、制度的には現状の幼稚園のままでも「3号」認定児の受け入れが可能となりつつあり、当園でも対応の可否を模索してみたいと考えている。